

# 上巻・目次

## 第I編 基礎分野

### 第1章 社会と医療

<b>1 人間と人間生活</b>	<b>4</b>
A 身体(からだ)	5
1. 外面からみた身体	5
2. 内面からみた身体	5
3. 個体差と正常・異常	5
4. 身体に異常をもたらすもの	6
B 心(こころ)	6
1. 脳と心	6
2. 心の発達	6
3. 心の異常	7
4. 心と身体のおぼつかなさ	7
C 生活(暮らし)	7
1. 生活という言葉	7
2. 生活を支える活動	8
3. 平安な生活を支えるもの	8
4. 人間の叡智への期待	8
<b>2 科学的思考の基礎</b>	<b>10</b>
A 科学的思考	10
科学(science)とは	10
B 科学における客観性	11
C 仮説と実証	12
D 再現性	12
E 母集団とサンプル(抽出標本)	13
F 内的妥当性と外的妥当性	13
G 普遍性	14
H 科学とアート(science and art)	14
<b>3 生命倫理と医の倫理</b>	<b>16</b>
A 生命倫理と医の倫理	16
1. 生命倫理に関する原則	16
2. ヒポクラテスの誓い	17
3. ジュネーブ宣言	17
4. ヘルシンキ宣言	18
5. リスボン宣言	18
B 生命倫理の考え方と医療の実際	18
C 傷病者の権利を護る立場から	19
1. インフォームドコンセント	19
2. QOL (quality of life)	20
3. リビングウイル	20
4. 脳死と臓器移植	20
D 救急救命士の職業倫理	21
1. 日常業務における救急救命士の責務	21
2. 救急救命士が個々人として研鑽すべき責務	22

## 第2章 健康と社会保障

<b>1 保健医療制度の仕組みと現状</b>	<b>24</b>
A 公衆衛生の仕組み	24
1. 健康とは	24
2. 公衆衛生の定義	24
3. 保健指標	25
4. 公衆衛生に関係する行政組織	25
B 医療を取り巻く環境	27
1. 人口構造の変化	27
2. 疾病構造の変化	30
3. 受療状況の変化	33
C 医療供給体制	33
1. 保健医療従事者	33
2. 医療機関	35
3. 「医療法」と医療計画	36
4. 在宅医療と地域包括ケア	38
D 環境保健	40
1. 食品衛生	40
2. 公害と環境	40
E 労働衛生を支える仕組み	42
1. 「労働者災害補償保険法」と労働災害	42
2. 労働衛生	42
3. 作業関連疾患	43
4. トータルヘルスプロモーションプラン (THP)	43
5. 産業医	43
F 学校保健を支える仕組み	44
G 母子保健を支える仕組み	45
1. 母子保健指標	45
2. 母子保健	45
H 地域保健を支える仕組み	47
1. 「地域保健法」と保健所(市町村保健センター)	47
2. 健康増進	47
I 高齢者を支える仕組み	49
J 精神保健福祉を支える仕組み	49
1. 入院形態	50
2. 人権擁護	51
3. 関連施設	51
<b>2 社会保障と社会福祉を支える仕組み</b>	<b>52</b>
A 社会保障, 社会福祉の仕組み	52
1. 社会保障, 社会福祉の理念	52
2. 社会保障, 社会福祉を担当する行政組織	52
3. 関連施設	53
4. 社会保障の費用	53
B 社会保険と制度	54
1. 社会保険制度の理念	54

2. 医療保険制度	55
3. 介護保険制度	57
4. 年金保険制度	59
C 社会福祉と制度	60
1. 生活保護	60
2. 児童福祉	60
3. 高齢者福祉	61
4. 母子および寡婦福祉	62
5. 障害者福祉	62

## 第Ⅱ編 専門基礎分野

### 第1章 人体の構造と機能

1 人体を構成する要素	68
A 人体の作りとその役割	68
1. 細胞	68
2. 組織	70
3. 臓器	70
B 体液	71
1. 体液の組成	71
2. 細胞外液	71
3. 細胞内液	72
4. 電解質	72
5. 酸塩基平衡	72
6. 浸透圧	73
7. 電解質と体液調節のメカニズム	75
2 体表からみる人体の構造	76
A 人体の位置・方向・運動に関する用語	76
1. 軸と面	76
2. 帯	76
3. 線と点	76
4. 関節運動の方向	78
B 体表からみた構造と名称	79
1. 体表からの観察	79
2. 頭部(顔部)の構造	79
3. 頸部の構造	81
4. 胸部の構造	82
5. 腹部の構造	84
6. 会陰部の構造	85
7. 上肢の構造	86
8. 下肢の構造	86
C 体表からみえる解剖学的指標	88
D 身体各部の役割	90
1. 頭部(顔面)・頸部の機能	90
2. 胸部の機能	90
3. 腹部の機能	91
4. 四肢・骨盤の機能	91
E 体腔内臓器の体表からの位置関係	91
1. 頭蓋腔	92
2. 胸腔	92
3. 腹腔	92
3 神経系	93
A 神経系の構成と役割	93

1. 神経系の構成	93
2. 神経系の役割	94
B 中枢神経系	95
1. 大脳	95
2. 間脳	97
3. 小脳	98
4. 脳幹	98
5. 脊髄	98
6. 脳室	99
7. 脳脊髄液	99
C 末梢神経系	100
1. 脳神経	100
2. 脊髄神経	102
D 伝導路	102
1. 運動の伝導路	102
2. 知覚の伝導路	103
E 自律神経系	104
1. 交感神経	104
2. 副交感神経	104
F 脳循環	104
1. 内頸動脈系	106
2. 椎骨脳底動脈系	106
3. 交通動脈・ウイリス動脈輪	106
4. 脳血流の調節	106
G 意識	107
1. 意識の意味	107
2. 意識の中樞	108
H 反射	108
4 感覚系	110
A 感覚系の構成と役割	110
1. 感覚系の構成	110
2. 感覚系の役割	110
B 視覚	110
1. 視覚器	110
2. 視覚路	112
C 平衡感覚・聴覚器	112
1. 聴覚器	112
2. 平衡感覚器	113
D 嗅覚器	113
E 味覚器	113
F 皮膚感覚器	114
5 呼吸系	115
A 呼吸系の構成と役割	115
1. 呼吸系の構成	115
2. 呼吸系の役割	115
B 呼吸	116
C 気道	116
1. 気道の構造	116
2. 気道の機能	120
D 胸郭	120
E 肺	122
F 肺胞でのガス交換	123
G 体内での酸素の動き	124
H 呼吸の調節	124

<b>6 循環系</b>	<b>126</b>	2. 精巢	160
A 循環系の構成と役割	126	3. 精巢上体	161
1. 循環系の構成	126	4. 精管, 射精管	161
2. 循環系の役割	127	5. 精囊	161
B 心臓	128	6. 前立腺	162
1. 心臓の構造	128	7. 精液の生成と射精	162
2. 刺激伝導系と心周期	131	C 女性生殖器	162
3. 冠循環	134	1. 外性器	162
4. 心臓のポンプ機能	135	2. 内性器	164
C 脈管	136	3. 性周期と月経	166
1. 動脈	136	<b>10 内分泌系</b>	<b>169</b>
2. 静脈	136	A 内分泌	169
3. 毛細血管	136	1. 内分泌とは	169
4. リンパ管	137	2. 内分泌の役割	170
5. 血管の機能	137	B 内分泌器官	170
D 循環の制御	137	1. 下垂体前葉	170
1. 自律神経系による制御	139	2. 下垂体後葉	170
2. 内分泌系による制御	139	3. 甲状腺	171
<b>7 消化系</b>	<b>141</b>	4. 副甲状腺	171
A 消化器	141	5. 副腎	171
1. 消化器の構成と構造	141	6. ランゲルハンス島	172
2. 消化器の役割	141	7. 精巢	172
B 口腔・咽頭	141	8. 卵巣	173
1. 口腔	141	9. その他	173
2. 咽頭	143	<b>11 血液・免疫系</b>	<b>174</b>
3. 咀嚼と嚥下	144	A 血液	174
C 消化管	144	1. 血液の成分	174
1. 食道	144	2. 血液系の役割	174
2. 胃	145	B 血球	175
3. 小腸	147	1. 赤血球	175
4. 大腸	150	2. 白血球	177
D 肝臓・胆道系	152	3. 血小板	177
1. 肝臓・胆道	152	4. 血液の産生	178
2. 門脈	154	C 血漿	178
E 膵臓	154	1. 血漿の成分	178
1. 膵臓の部位と構造	154	2. 血漿の役割	178
2. 膵臓の機能	154	D 骨髄の構造と機能	179
F 腹膜・腹腔	155	E 脾臓	179
1. 腹膜	155	F 止血と凝固	179
2. 腹膜腔・後腹膜腔	155	1. 一次止血	180
<b>8 泌尿系</b>	<b>156</b>	2. 二次止血	180
A 泌尿系の構造	156	3. 凝固因子	181
B 腎臓	156	4. 血栓	181
1. 腎臓とその役割	156	5. 線溶	181
2. 尿の生成	156	G 免疫	181
C 尿路	158	1. 免疫の役割	181
1. 尿路の役割	158	2. 免疫の仕組み	182
2. 尿管	158	3. 免疫系	182
3. 膀胱	158	4. アレルギー	184
4. 尿道	159	<b>12 筋・骨格系</b>	<b>186</b>
<b>9 生殖系</b>	<b>160</b>	A 筋・骨格	186
A 生殖系の構造と役割	160	1. 筋・骨格の構造	186
B 男性生殖器	160	2. 筋・骨格の機能	186
1. 陰茎	160	B 筋肉	186

1. 骨格筋	186	3. 続発症と合併症	213
2. 平滑筋	187	4. 心と身体の間連	213
3. 心筋	188	5. 個人差・個体差	213
4. 筋収縮の仕組み	188	C 回復に必要な要素	214
C 骨・関節	188	1. 対症療法と原因治療	214
1. 骨	188	2. 侵襲からの回復	214
2. 皮質骨と骨髄	188	3. 回復への支援	215
3. 関節	189	D 疾患の予防	216
D 靭帯・腱	190	1. 予防医学	216
E 脊柱の構造	190	2. 生活習慣病	216
<b>13 皮膚系</b>	<b>192</b>	<b>2 炎症と感染</b>	<b>218</b>
A 皮膚の構造	192	A 炎症	218
1. 表皮	192	1. 定義と原因	218
2. 真皮	192	2. 分類	218
3. 皮下(脂肪)組織	193	3. 局所の変化と全身への影響	219
4. 皮膚付属器	193	B 感染症	220
B 皮膚の役割	195	1. 微生物	220
1. 防御機能	195	2. 感染の成り立ち	221
2. 知覚	195	3. 感染経路	222
3. 体温調節機構	195	4. 耐性菌と菌交代現象	223
4. 免疫機構	196	5. 日和見感染	223
5. ビタミンD合成機構	196	<b>3 循環障害</b>	<b>224</b>
6. 情動を表出する機構	196	A 虚血	224
7. その他の役割	196	1. 病態	224
C 乳房	196	2. 代表的な疾患	224
<b>14 生命の維持</b>	<b>197</b>	B うっ血	224
A 栄養と代謝	197	1. 病態	224
1. 栄養素	197	2. 代表的な疾患	225
2. エネルギーを得る仕組み	198	C 出血	225
B 外呼吸	200	1. 病態	225
1. 大気	200	2. 代表的な疾患	226
2. 気道とガス交換部(肺胞)	201	D 血栓と塞栓	226
3. 血液の酸素化と二酸化炭素の排出	202	1. 病態	226
C 循環(酸素運搬と臓器血流)	204	2. 代表的な疾患	227
1. 酸素運搬	204	E 梗塞	227
2. 臓器血流	204	1. 病態	227
D 組織酸素代謝	204	2. 代表的な疾患	227
E 内部環境	205	F 浮腫	228
1. 体液の役割とその調節	205	1. 病態	228
2. 電解質の役割とその調節	206	2. 代表的な疾患	229
3. 酸塩基平衡の役割とその調節	206	<b>4 代謝障害</b>	<b>230</b>
4. 浸透圧の役割とその調節	206	A 糖質の代謝障害	230
5. 体温の役割とその調節	207	1. 病態	230
		2. 意識障害	231
		B 脂質の代謝異常	231
		1. 病態	231
		2. 代表的な疾患	232
		C 蛋白質の代謝異常	232
		1. 病態	232
		2. 代表的な疾患	232
		D ビタミンの異常	232
		E 体液と電解質異常	233
		1. 体液の異常	233
		2. 電解質の異常	234
<b>第2章 疾患の成り立ちと回復の過程</b>			
<b>1 疾患</b>	<b>210</b>		
A 疾患の原因	210		
1. 主因と誘因, 内因と外因	210		
2. 遺伝性と孤発性	210		
3. 先天性と後天性	211		
B 発症と経過	212		
1. 急性・亜急性と慢性	212		
2. 進行と増悪	212		

F 酸塩基平衡異常	235	3. 乾燥と角膜の混濁	254
1. 呼吸性アシドーシス	235	4. 体温下降	255
2. 呼吸性アルカローシス	235	5. 現場における明らかな死亡の判断	255
3. 代謝性アシドーシス	235	C 死にかかわる手続きと検査	255
4. 代謝性アルカローシス	236	1. 死亡診断書(死体検案書)と死因の種類	255
G 内分泌異常	236	2. 死因の推定	256
1. 病態	236	3. 死亡時画像診断	256
2. 代表的な疾患	237	D 死体の尊厳	257
<b>5 退行性病変と進行性病変</b>	<b>238</b>		
A 退行性病変	238		
1. 壊死	238		
2. 変性	239		
3. 萎縮	239		
B 進行性病変	240		
1. 再生	241		
2. 肥大	241		
3. 過形成	242		
4. 化生	242		
5. 肉芽形成	242		
<b>6 腫瘍</b>	<b>243</b>		
A 腫瘍とは	243		
B 良性腫瘍	243		
C 悪性腫瘍	243		
1. 発癌	243		
2. 増殖と進展	244		
3. 転移と再発	245		
4. 症状	245		
5. 医療機関における診断	246		
6. 治療	246		
<b>7 先天異常</b>	<b>247</b>		
A 内因性先天異常	247		
1. ダウン症候群	247		
2. 心奇形	247		
3. 消化器奇形	247		
4. ターナー症候群	248		
5. マルファン症候群	248		
6. フェニルケトン尿症	248		
B 外因性先天異常	248		
1. 先天性風疹症候群	248		
2. その他の催奇形因子	249		
<b>8 損傷</b>	<b>250</b>		
A 損傷	250		
B 創傷治癒	250		
1. 一次治癒	251		
2. 二次治癒	251		
3. 骨折の治癒	251		
4. 異常な治癒	251		
<b>9 死</b>	<b>253</b>		
A 死の概念	253		
1. 心臓死	253		
2. 脳死	253		
B 死体現象	254		
1. 死斑	254		
2. 死後硬直(死体硬直)	254		

  

<b>第3章 薬物と検査の基礎知識</b>	
<b>1 医薬品の基礎</b>	<b>260</b>
A 薬物総論	260
1. 薬物とは	260
2. 薬物の分類	260
3. 医薬品の種類	260
4. 薬物の代謝	263
5. 投与経路とその特徴	265
B 薬物の有害作用	265
1. 有害反応の種類	265
2. 薬物過量と薬物中毒	266
3. 薬物アレルギー	266
4. アナフィラキシー反応	266
<b>2 重要な医薬品</b>	<b>267</b>
A 救急救命処置に用いられる薬剤	267
1. アドレナリン	267
2. 乳酸リンゲル液	269
3. ブドウ糖	269
B 使用頻度の高い薬	270
1. 経口糖尿病薬	270
2. インスリン	271
3. 亜硝酸薬	271
4. 降圧薬	271
5. 気管支拡張薬	271
6. 利尿薬	272
7. 向精神薬	272
8. ワルファリン	273
9. 抗血小板薬(アスピリンなど)	273
10. シルденаフィル	273
11. 抗てんかん薬	273
12. ステロイド	274
13. 感冒薬	274
14. 胃腸薬	274
15. 鎮痛薬	274
16. 睡眠薬	275
17. 抗菌薬, 抗ウイルス薬	275
C 輸液・輸血製剤	275
1. 輸液製剤	275
2. 血液製剤	276
D 保存と保守管理	276
1. 法による規制	276
2. 品質確保のための保管	277
<b>3 検査</b>	<b>278</b>
A 検査の目的	278

B 基準値, カットオフ値, パニック値	278
C 検査の種類	279
1. 検体検査	279
2. 生理学的検査	279
3. 画像検査	279
D 緊急検査	279
1. 血液検査	279
2. 動脈血液ガス検査	279
3. 尿検査	280
4. 心電図検査	280
5. 単純X線検査	280
6. CT検査	280
7. 超音波検査	281
8. MRI(核磁気共鳴)検査	281
9. 血管造影検査	281
10. 内視鏡検査	282

### 第Ⅲ編 専門分野

#### 第1章 救急医学概論/病院前医療概論

<b>1 救急医療体制</b>	<b>286</b>
A 病院前医療	286
1. 救急搬送体制	286
2. ドクターヘリ	286
3. ドクターカー	289
B 救急医療システム	289
1. 救急告示病院制度	289
2. 初期・第二次・第三次救急医療機関体制	290
3. 救急医療体制の一元化	290
4. 周産期救急医療体制	291
5. 精神科救急医療体制	292
6. 小児救急医療体制	292
7. 医療計画と救急医療体制	292
C 救急医療情報	293
1. 救急医療情報センター	293
2. 救急相談センター・救急安心センター(#7119)	294
<b>2 災害医療体制</b>	<b>295</b>
A 災害の概念	295
1. 災害の定義	295
2. 災害の分類	295
3. 主な災害事例	296
B 多数傷病者対応	297
1. CSCATTT	297
2. 最先着隊の活動	298
3. 指揮命令と連絡調整(command and control)	298
4. 安全(safety)	299
5. 情報伝達(communication)	299
6. 評価(assessment)	300
7. 現場救護所と救護活動(処置・治療 treatment)	300
8. 搬送(transportation)	300

9. マスギャザリングへの対応	301
C トリアージ	301
1. トリアージの概念	301
2. 一次トリアージ	302
3. 二次トリアージ	303
4. トリアージタグ	303
D 大規模災害	303
1. 災害医療対策の法的骨格	303
2. 災害拠点病院	306
3. DMAT	307
4. 緊急消防援助隊	307
5. 広域医療搬送	308
6. 発災後の経時的医療ニーズの推移	308
7. 要配慮者	308
8. 災害対応における他機関との連携	309
9. 広域災害救急医療情報システム(EMIS)	310
E 特殊災害(CBRNE)	310
<b>3 病院前医療体制</b>	<b>312</b>
A 救命の連鎖	312
1. 救命の連鎖とは	312
2. 救命の連鎖における要素	312
B 市民による一次救命処置	313
1. 一次救命処置	313
2. 小児一次救命処置(PBLS)	316
C 市民教育	317
1. 応急手当の普及	317
2. 応急手当講習	317
D メディカルコントロール	318
1. メディカルコントロールとは	318
2. 具体的指示と包括的指示	319
3. オンラインメディカルコントロールと オフラインメディカルコントロール	319
4. メディカルコントロール協議会	320
5. PDCA サイクル	322
<b>4 消防機関における救急活動の流れ</b>	<b>323</b>
A 119番受信と通信体制	323
1. 通信指令の概要と役割	323
2. 出動指令	323
3. 口頭指導	324
B 出動	325
C 現場活動	325
1. 状況評価	325
2. 初期評価	325
3. 全身観察	325
4. 緊急度・重症度の判断	325
5. 救急救命処置の実施	326
D 医療機関選定と搬送	326
1. 医療機関選定	326
2. 搬送	326
3. 継続観察	326
4. 医師への引き継ぎ	327
E 通信体制	327
1. 現場即報	327
2. 応援要請(他隊要請, 医師要請など)	327

3. 指示要請	327	2. 国家資格としての救急救命士	347
4. 助言要請	327	3. 救急救命士の業務の場所	347
5. 現場報告	327	4. 救急救命処置の定義	347
F 救急活動の記録	328	5. 特定行為	347
1. 救急活動記録票	328	6. 義務と罰則	348
2. 救急救命処置録	328	C 医師法	349
3. 事後検証票	328	D 保健師助産師看護師法	349
4. 「救急・救助の現況」	328	E 消防法	350
5. ウツタイン様式	328	1. 「消防法」の成立と改正	350
G 他の関係機関との連携	330	2. 「消防法」と救急業務	350
1. 医療機関	330	3. 搬送・受け入れの基準	351
2. 警察	330	F 医療法	353
3. 福祉事務所	332	G その他の法令	354
4. 保健所	332	1. 死亡者に関する法令	354
<b>5 救急救命士の役割と責任</b>	<b>333</b>	2. 精神障害者に関する法令	354
A 病院前救護において果たすべき役割	333	3. 酩酊者に関する法令	355
1. 傷病者とのかかわり	333	4. 行旅病人, 生活保護法適用傷病者に関する法令	357
2. 市民に対する責任	334	5. 麻薬, 覚せい剤に関する法令	357
3. 医療機関とのかかわり	334	<b>8 救急救命士の養成と生涯教育</b>	<b>358</b>
4. 消防指令室などとの連携	334	A 救急救命士の養成課程	358
5. 関係機関との連携	334	B 救急救命士の生涯教育	358
6. 救急隊員の指導	334	1. 職場での自己研鑽	358
B 医療関係職種としての責任	335	2. 職場以外での自己研鑽	359
1. 守秘義務	335	3. 科学的思考の醸成	359
2. 救急救命処置録	335	C 病院実習	360
3. 自己研鑽(資質維持の責任)	336	1. 病院実習の目的	360
<b>6 救急救命士と傷病者の関係</b>	<b>337</b>	2. 病院実習の心構え	362
A 接遇とコミュニケーションの種類	337	3. 病院実習が行われる場所	362
1. 接遇	337	4. 救急ワークステーション	363
2. コミュニケーションの種類	337	5. 病院実習の記録	363
B 対象に応じたコミュニケーション	338	<b>9 安全管理と事故対応</b>	<b>364</b>
1. 高齢傷病者とのコミュニケーション	338	A 安全管理	364
2. 小児とのコミュニケーション	339	B リスクマネージメント	364
3. 家族や関係者とのコミュニケーション	340	1. ヒューマンエラー	364
4. 医師とのコミュニケーション	341	2. インシデントとアクシデント	364
5. 救急隊員や消防隊員とのコミュニケーション	342	3. ハインリッヒの法則	365
C 救急活動でのインフォームドコンセント	342	C 傷病者の事故	365
1. 救急活動での説明と同意	342	1. 転倒・転落	365
2. 意識のない傷病者への対応	343	2. チューブ・カテーテル類の事故	366
3. 制限行為能力者への対応	343	3. 誤嚥	367
4. 傷病者の意思に反する対応	343	4. 感染	367
5. 傷病者への“説明と同意”の実際	344	D 救急救命士等の事故	368
6. 生前意思表示への対応	344	1. 感染	368
<b>7 救急救命士に関連する法令</b>	<b>345</b>	2. 救急活動中の事故	368
A 法令の基本	345	3. 暴言・暴力	368
1. 法令の序列	345	E 医療事故と医療過誤	368
2. 法律	345	1. 医療事故	368
3. 政令と省令(府令)	345	2. 医療過誤	369
4. 条例と規則	345	F 救急活動における事故の報告と対応	369
5. 法令とは扱われないもの	345	1. 事故の報告	369
6. 条文	346	2. 事故の検証	369
B 救急救命士法	346	<b>10 感染対策</b>	<b>370</b>
1. 法の制定と目的	346	A 感染予防策と感染防御	370

1. 感染予防策の変遷	370	6. 搬送経路の確認	398
2. 標準予防策(スタンダードプリコーション)	371	B 初期評価	398
		1. 外見	398
3. 感染経路と感染予防策	371	2. 気道	398
B 救急活動での感染防御	372	3. 呼吸	398
1. 手洗い	372	4. 脈拍	398
2. 感染防止用個人防護具	373	5. 血圧	399
C 洗浄と消毒	377	6. 意識	399
1. 清潔と不潔	377	C 全身観察と重点観察	399
2. 滅菌, 消毒, 洗浄	377	1. 全身観察	399
3. 資器材の洗浄と消毒の手順	377	2. 重点観察	399
4. 消毒区分と消毒液の適応	378	D 緊急度・重症度判断と医療機関選定	399
5. 救急資器材等に使用する消毒液	378	1. 緊急度・重症度判断	399
6. 救急車内の清拭と消毒	379	2. 医療機関選定	400
7. 感染性リネン類の取り扱い	379	E 搬送と車内活動	400
D 感染事故と事故後の対応	380	1. 搬送	400
1. 感染事故	380	2. 継続観察	400
2. 結核への対応	381	3. 詳細観察	400
3. 新型インフルエンザへの対応	382	<b>3 全身状態の観察</b>	<b>401</b>
4. 「感染症法」に指定された感染症傷病者の対応	383	A 外見の観察	401
<b>11 ストレスに対するマネジメント</b>	<b>384</b>	1. 体位	401
A 救急活動でのストレス	384	2. 顔色・顔貌・表情	401
1. ストレスの概念	384	3. 嘔吐	401
2. ストレス反応	385	4. 咯血・吐血	402
3. ストレス障害	386	5. 四肢の変形	402
B 救急活動でのストレスへの対応	386	6. 外出血	402
1. ストレス耐性	386	7. 皮膚	402
2. 環境整備と相談窓口	387	8. 失禁	402
3. ストレスへの対応	387	9. 痙攣	402
		10. 栄養	402
		11. 会話, 態度	403
		12. 歩行	403
		13. 行動	403
		B 気道に関する観察	404
		1. 気道の開通	404
		2. 気道の閉塞	404
		C 呼吸に関する観察	404
		1. 呼吸の有無	404
		2. 呼吸の性状	404
		D 循環に関する観察	406
		1. 脈拍の有無	406
		2. 脈拍の性状と様式	407
		3. 血圧	409
		E 神経に関する観察	410
		1. ジャパンコーマスケール(JCS, 3-3-9度方式)	410
		2. グラスゴーコーマスケール(GCS)	410
		3. 意識障害の特殊型	411
		4. 神経学的異常の観察	412
		<b>4 局所の観察</b>	<b>416</b>
		A 観察結果の表現	416
		B 皮膚	416
		1. 色調と温度, 乾燥	416
		2. 発汗	416
<b>第2章 救急医学概論/救急救命処置概論</b>			
<b>1 観察</b>	<b>390</b>		
A 観察の目的と意義	390		
B バイタルサイン	390		
1. 呼吸	390		
2. 脈拍	391		
3. 血圧	391		
4. 体温	391		
5. 意識	391		
C 観察の方法	392		
1. 問診	392		
2. 視診	395		
3. 聴診	395		
4. 触診	395		
5. 打診	395		
<b>2 現場活動の基本</b>	<b>396</b>		
A 状況評価	396		
1. 感染防御	396		
2. 携行資器材の確認	396		
3. 安全確認と二次災害防止	396		
4. 発症状況・受傷機転の確認	397		
5. 傷病者数の確認と応援要請	398		



3. 出血斑	417	2. 適応	438
4. 発疹	417	3. 構造と原理	438
5. 浮腫	417	4. 方法	438
C 頭部・顔面・頸部	417	5. 評価	438
1. 顔面の左右差	417	6. 注意点	439
2. 瞳孔	418	B カブノメータ	439
3. 眼位	418	1. 目的	439
4. 眼球・眼瞼結膜	418	2. 適応	439
5. 呼気臭	419	3. 構造と原理	439
6. 項部硬直	419	4. 方法	439
7. 外頸静脈怒張	419	5. 評価	439
8. 気管偏位	419	6. 注意点	440
9. 皮下気腫	419	C 聴診器	441
10. 腫脹	419	1. 目的	441
11. 変形	420	2. 構造	441
12. 髄液漏	420	3. 方法	441
13. 視覚	420	4. 評価	441
14. 聴覚	420	5. 注意点	442
D 胸部(背部)	420	D 血圧計	442
1. 胸郭運動	421	1. 目的	442
2. 呼吸音	421	2. 種類と原理	442
3. 心音	422	3. 方法	442
E 腹部	422	4. 評価	443
1. 腹部膨隆	423	5. 注意点	444
2. 腹膜刺激徴候	424	E 心電図モニター	444
3. 腸蠕動音	424	1. 目的	444
4. 腹壁静脈の怒張	424	2. 適応	444
5. 腹部腫瘍	424	3. 原理と種類	444
6. 腹部動脈拍動	425	4. 心電図の基礎	446
F 鼠径部・会陰部	425	5. 方法	446
G 骨盤	425	6. 評価	447
H 四肢	425	7. 注意点	447
1. 運動障害	425	8. 心電図伝送	448
2. 知覚障害	426	F 体温計	448
3. 浮腫	426	1. 目的	448
4. 腫脹	426	2. 適応	448
5. 変形	426	3. 種類と原理	448
6. 短縮	426	4. 方法	448
7. 動脈拍動	427	5. 評価	449
8. 関節可動域	427	6. 注意点	449
I 手指, 足趾, 爪	427	G 血糖測定器	450
1. 変形, 腫脹, 色調, 潰瘍	427	1. 目的	450
2. 爪床圧迫テスト	427	2. 適応	450
J 各種病態の観察アルゴリズム	428	3. 構造と原理	450
<b>5 緊急度・重症度判断</b>	<b>429</b>	4. 資器材の準備	451
A 緊急度と重症度	429	5. 方法	451
1. 緊急度と重症度の概念	429	6. 評価	453
2. 判断の目的	429	7. 注意点	454
B 判断の基準	430	<b>7 救急救命士が行う処置</b>	<b>456</b>
1. 緊急度・重症度の分類	430	A 処置の目的と意義	456
2. 緊急度・重症度判断の基準	431	B 気道確保	456
<b>6 資器材による観察</b>	<b>438</b>	1. 用手的気道確保	456
A パルスオキシメータ	438	2. エアウェイを用いた気道確保	458
1. 目的	438	C 気道異物除去	459

1. 用手的気道異物除去	460	4. 評価	495
2. 器具による気道異物除去	461	5. 注意点	495
D 口腔内の吸引	461	L 除細動	495
1. 目的	461	1. 除細動器の分類	495
2. 適応	462	2. 目的	497
3. 方法と手順	462	3. 適応	497
4. 評価	462	4. 方法と手順	497
5. 注意点	462	5. 評価	499
E 声門上気道デバイスを用いた気道確保	462	6. 合併症	499
1. 目的	462	7. 注意点	499
2. 適応	463	M 静脈路確保と輸液	500
3. 方法と手順	463	1. 目的	500
F 気管挿管	469	2. 適応	500
1. 目的	469	3. 資器材の準備	500
2. 適応	470	4. 手順	503
3. 資器材の準備	470	5. 評価	506
4. 方法と手順	470	6. 合併症	507
5. 気管挿管困難症への対応	475	7. 注意点	507
6. ビデオ硬性喉頭鏡を用いた気管挿管	479	N アドレナリン投与	507
7. 合併症	480	1. 目的	507
8. 評価	481	2. 適応	508
9. 注意点	481	3. 資器材の準備	508
G 気管吸引	481	4. 方法と手順	508
1. 目的	481	5. 評価	508
2. 適応	481	6. 合併症	509
3. 方法と手順	481	7. 注意点	509
4. 評価	482	O 自己注射用アドレナリンの投与	509
5. 注意点	482	1. 目的	509
H 酸素投与	482	2. 適応	509
1. 目的	482	3. 資器材の準備	509
2. 適応	482	4. 方法と手順	510
3. 資器材の準備	482	5. 評価	510
4. 方法と手順	483	6. 合併症	510
5. 評価	485	7. 注意点	511
6. 合併症	486	8. 学校との情報共有	511
7. 注意点	486	P ブドウ糖の投与	511
I 人工呼吸	487	1. 目的	511
1. 目的	487	2. 適応	511
2. 適応	487	3. 資器材の準備	511
3. 資器材の準備	487	4. 方法と手順	512
4. 方法と手順	487	5. 評価	512
5. 評価	490	6. 合併症	512
6. 注意点	490	7. 注意点	513
J 胸骨圧迫	491	8. 「血糖測定とブドウ糖溶液の投与」のプロト コール	513
1. 目的	491	Q 体位管理	515
2. 適応	491	1. 目的	515
3. 方法と手順	491	2. 適応と手順	516
4. 評価	493	3. 評価	519
5. 合併症	494	4. 注意点	519
6. 注意点	494	R 体温管理	519
K 自動式心マッサージ器の使用	495	1. 保温	519
1. 種類と構造	495	2. 冷却	520
2. 適応	495	S 止血	521
3. 合併症	495		

1. 目的	521	1. 乳児の特異性	559
2. 止血法の種類	521	2. 乳児の蘇生ガイドライン	559
3. 必要な器具と準備	521	3. 入電時の対応	560
4. 評価	523	4. 救急隊員による一次救命処置(BLS)	560
5. 合併症	523	5. 代表的プロトコル	560
6. 注意点	523	6. 医療機関での治療	560
T 創傷処置	523	<b>9 在宅療法継続中の傷病者の処置</b>	<b>561</b>
1. 種類	523	A 在宅療養とは	561
2. 目的	523	B 在宅療法への対応	561
3. 適応	523	1. 在宅酸素療法(HOT)	561
4. 必要な器具と準備	524	2. 在宅人工呼吸	562
5. 手順	524	3. 気管切開	563
6. 評価	526	4. 植込み型ペースメーカー	564
7. 合併症	526	5. 経管栄養	564
U 固定	527	6. 中心静脈栄養カテーテル	565
1. 種類	527	7. 血液透析	566
2. 目的	527	8. 腹膜透析	567
3. 適応	527	9. 尿道カテーテル	567
4. 必要な器具	527	10. 人工肛門	568
5. 手順	527	<b>10 傷病者搬送</b>	<b>569</b>
6. 評価	538	A 搬送総論	569
7. 合併症	538	1. 搬送の目的と意義	569
8. 注意点	538	2. 傷病者搬送の手順	569
V 産婦人科領域の処置	539	3. 搬送時の注意点	569
1. 目的	539	4. 搬送経路の確認と指示	570
2. 適応	539	5. ボディメカニクス	570
3. 資器材の準備	539	B 搬送方法	571
4. 方法と手順	539	1. 体位変換	571
5. 評価	542	2. 徒手搬送	571
6. 注意点	543	3. 器具を用いた搬送	574
<b>8 救急蘇生法</b>	<b>544</b>	C 搬送手順	579
A 成人の救急蘇生法	544	1. メインストレッチャーまでの搬送	579
1. 蘇生ガイドライン	544	2. メインストレッチャーへの収容	580
2. 入電時の対応	544	3. ベッド上の傷病者のストレッチャーへの収容	580
3. 救急隊員による一次救命処置(BLS)	545	4. メインストレッチャーによる曳航	582
4. 代表的プロトコル	545	5. 救急自動車への搬入	583
5. 医療機関での治療	552	6. 救急自動車からの搬出	583
B 小児の救急蘇生法	555	D ヘリコプターへの搬入と搬出	583
1. 小児の特異性	555	1. ヘリコプターの主要な構造と特性	584
2. 小児の蘇生ガイドライン	555	2. ヘリコプターへの傷病者の搬入と搬出	585
3. 入電時の対応	556	E 事故車両からの救出方法	585
4. 救急隊員による一次救命処置(BLS)	556	1. 緊急搬出の原則	585
5. 代表的プロトコル	556	2. 緊急救出法	587
6. 医療機関での治療	557		
C 乳児の救急蘇生法	559		